

「半世紀の変化」



「半世紀の変化」というテーマを選んだ理由ですが、10月12日の会長の時間で冨田会長が1970年代からの北米産の外来種である背高泡立草と日本の在来種であるススキについて、背高泡立草が外来してから現在に至るまでのススキとの関係性や、1920年に日本で初めてロータリークラブが設立されてからの会員数のお話がありました。また、11月16日には、第3地域ロータリーコーディネーターの滝澤功治様より「ロータリーの魅力」のお話の中で、メイクアップが入会したころは期間が例会の前後7日間であったのが、1995年規定審議会で例会の前後14日間と長くなり、その後2019年規定審議会で「同一年度内」となり、2022年の規定審議会では、例会出席の報告義務が廃止され「大きな変更」とお話しをされていました。そういったお話を聞きながら、私も来年の2024年には50歳を迎える年でもありこのテーマでお話しさせて頂こうと思い「半世紀の変化」というテーマにしました。まず、世代についての変化をお話ししたいと思います。半世紀前の1971年から1974年頃に生まれた私の世代は「団塊の世代」の子供の世代にあたり、「団塊ジュニア世代」と言われております。次に1987年から2004年生まれは、授業時間数の削減など「詰め込み教育からゆとり教育へ」の転換がはかられた時代に学齢期を過ごし、また学生時代からスマートフォンを使いこなし、SNSを駆使して横のつながりや「共感」を大切にす世代で「ゆとり世代」と言われております。そして、1995年から2010年頃までの生まれは、家庭にパソコンが本格的に普及しはじめて生まれた時点でインターネットが利用可能であった最初の世代で、ITテラシーが高く、SNSを解しての情報収集、情報発信を得意とし「Z世代」と言われております。もともとアメリカでは、1960年から1970年代生まれを「X世代」、1980年から1990年代前半を「Y世代」と呼んでいた流れで、それに続く世代として「Z世代」と呼ばれるようになったそうです。各世代には、それぞれの時代の背景を反映した特色があります。そこで、半世紀の変化で、まずは、出生数の変化について調べてみました。第1次ベビーブーム期には約270万人、第2次ベビーブーム期のちょうど半世紀前の1973年には約210万人でしたが、1975年に200万人を割り込み、それ以降毎年減少し、2022年は約77万人と、統計を始めた1899年以降で最少となり、初めて80万人台を割り込んでいます。次に身近な機械はどのように変化していったか調べてみました。まずは冷蔵庫です。1918年にアメリカで世界初の電気冷蔵庫が開発され、1930年に芝浦製作所（現東芝）は初の国産冷蔵庫を製造、1952年に国産初の一般家庭向けの小型電気冷蔵庫が発売されました。そしてちょうど半世紀前の1973年に3ドア冷蔵庫が販売され庫内を食材別に仕切るのが一般的になりました。今、本来なら食べられる食品が捨てられる「食品ロス」が大きな問題となっておりますが食品ロスのうち、半分近くは冷蔵庫から生まれているという研究結果もあります。現在、冷蔵庫での食品ロスを減らすさまざまな技術が研究、実用化されています。次に電話について調べてみました。1890年に東京－横浜間で電話サービスが開始し、1900年に上野駅と新橋駅に公衆電話が設置されました。1962年には、どの家庭にも備えられていたダイヤル式黒電話機が登場し、やがてプッシュフォンに置き換わり、固定電話にはファック

スや録音など様々な機能が加えられました。1990年代にはコードレス電話機が急速に普及しましたが、現在は、固定電話の利用は携帯電話の利用拡大に伴って次第に減少しております。携帯電話は、1979年に第1世代移動通信システム（1G）が稼動を開始し、1985年に可搬型無線電話として肩掛けタイプのショルダーフォンが登場しました。1987年にNTTが携帯電話サービスを開始し、NTTからハンディタイプの携帯電話を発売、そして1991年にはNTTがムーバを発表、1999年には携帯電話からインターネット接続サービスが開始し、2004年にはおサイフ携帯が登場、2020年には第5世代移動通信システム（5G）が稼動を開始しております。

また腕時計においても、1972年にアメリカで世界発のデジタル時計が登場し、1977年にはキーボードを備えたLED式のデジタル時計が登場、1984年にはCPUを備えてパソコンと接続出来る腕時計が発売、2010年には人体の活動の様子を計測出来る様々なセンサーを備えた機種が続々と登場しております。一方で、先ほどお話しました1900年に登場した公衆電話においては、1984年（昭和59年）がピークで約93万台ありましたが携帯電話の普及により2023年3月末時点では、約12万台となり、39年で約81万台削減されております。また、11月29日の3月末時点では、約12万台となり、39年で約81万台削減されております。また、11月29日の神戸新聞にも、携帯電話の影響に関連する記事の記載がありました。どのような内容かと言いますと、「小中高 視力1.0未満最多 スマホ利用増影響」という記事です。2022年度の学校保健統計調査によりますと、裸眼視力が1.0未満の割合は小学生37.88%・中学生61.23%・高校生71.56%でいずれも過去最多で視力低下が深刻で、文部科学省は「スマートフォンやデジタル端末を使う時間が増えたため」と分析しております。裸眼視力は1979年度から調査されており、当時は1.0未満の小学生17.91%・中学生35.19%・高校生53.02%だったそうです。これも、一つの半世紀の変化だと感じました。この度の原稿を考えていますと、不思議と色々なことが目に止まります。2022年（令和4年）6月23日の家庭集会も100年の節目を迎えた旧網干銀行湊倶楽部で行われましたが、1922年（大正11年）5月に落成式が執り行われ、1970年から45年間洋装店の店舗に、2019年からはレストランへと変化をしております。また来年には20年ぶりに一万円札・五千円札・千円札の紙幣のデザインが一新され、新紙幣が発行されます。半世紀前の1973年には、第4次中東戦争をきっかけに第一次オイルショックが発生し石油価格が高騰、狂乱物価といわれたインフレが市民生活や産業界を直撃した時代背景があり、そこから半世紀で色々なものが大きく変化し現在がありますが、これからも良き変化に対しては、楽しみながら過ごせたらと思っております。